



みんなで実現!
未来支える防潮堤

第7回浜松市沿岸域 防潮堤整備推進協議会 資料

- ①防潮堤整備の進捗状況と今後の予定
- ②自然環境検討委員会の検討内容
- ③試験植栽

平成26年12月9日
静岡県浜松土木事務所

1

浜松市沿岸域防潮堤整備の状況

三者基本合意(平成24年6月11日)



三者基本合意のポイント

一条工務店グループは、県に対し浜松市沿岸域の防潮堤整備の費用として300億円を寄付

県はできるだけ早い時期に着工し、完成させる。工事対象区間は浜名湖入り口東岸から天竜川西岸までの約17.5km

県は馬込川河口部に必要な津波対策を迅速に行う

浜松市は防潮堤整備に必要な土砂を確保する。県と連携・協力し、理解促進のための住民・各種団体への説明を行う



海岸防災林の伐採



防潮堤の築造



築堤完成

天竜川右岸から浜名湖今切口までの17.5kmの内、5km区間について本年度から本体施工を行っています。



工 区		CSG打設量 (総打設量(予定量))	進捗率 (CSG打設量ベース)	備 考
試験施工		約5万m ³	100%	平成26年5月完成
本体施工	本体工区1～4	約54万m ³	約10% (平成26年11月25日現在)	施工中
全体計画		(約200万m ³)		

4

平成26年度の防潮堤整備内容(CSG製造工)

- 6月よりCSGプラントの造成を開始し、9月4日よりCSG製造を開始しました。
- 完成したCSGプラントは、1日に最大で2,800m³の製造能力があり、日本で最大級のプラントになります。



CSG製造工



- 本体施工の各工区においては、7月より順次、基礎掘削工を開始しました。
- 本土工1工区では、9月4日より築堤を開始し、東側の約300mの区間は、標高8.8mまで築堤が完了しています。



今後の整備箇所における課題



国道1号浜名バイパス区間

- 課題
- アカウミガメの産卵域調査及び影響軽減策検討
 - 国道1号との協議



中田島砂丘～馬込川区間

- 課題
- 貴重な動植物の生息域調査及び影響軽減策検討
 - 浜松まつり・中田島砂丘と一体となった利用施設設計



馬込川～天竜川区間

- 課題
- 人工池の貴重種等調査及び影響軽減策の検討

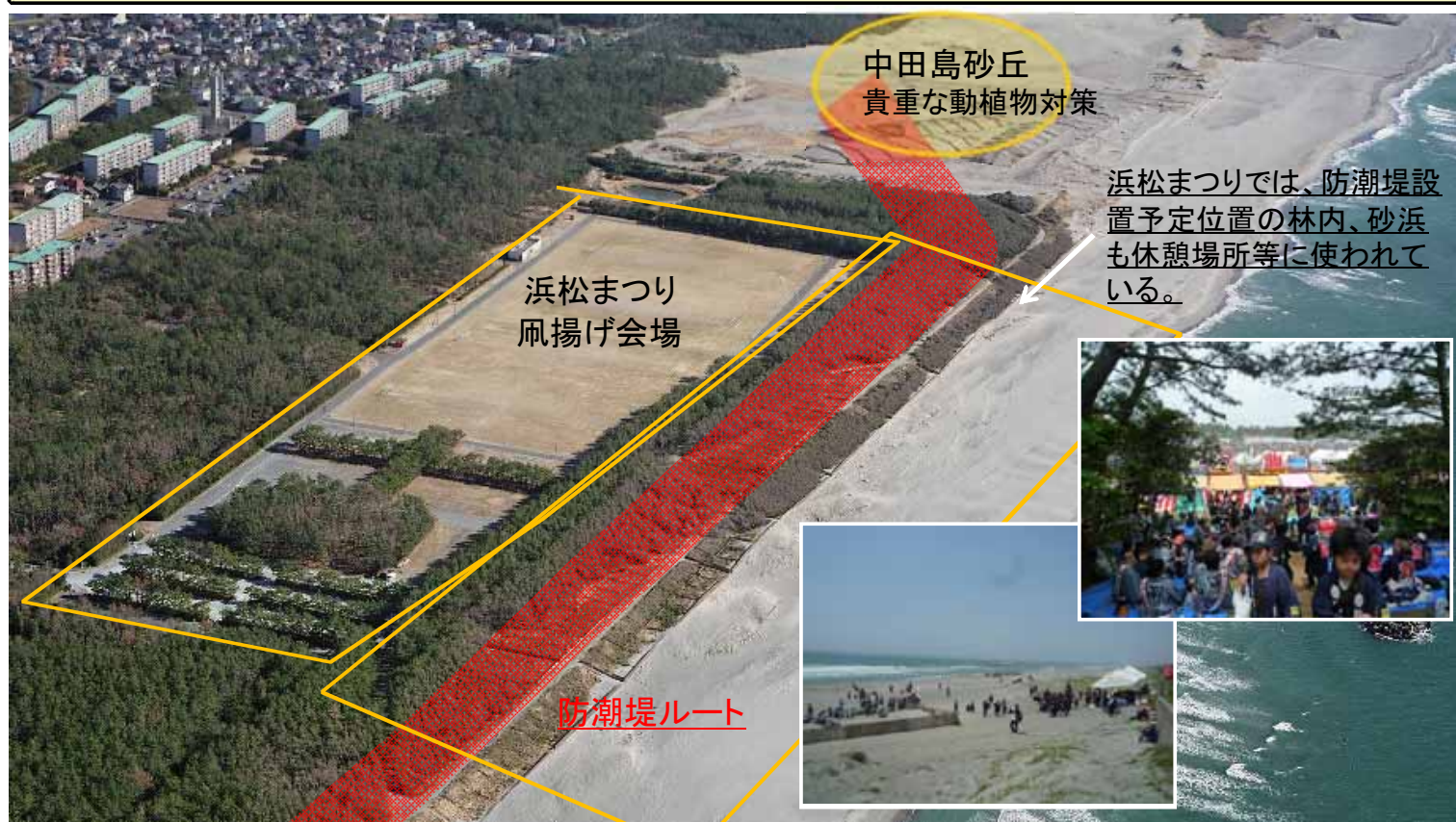


国道1号浜名BP区間では、「アカウミガメの産卵域」、「国道1号バイパス」等に配慮した整備が求められている。

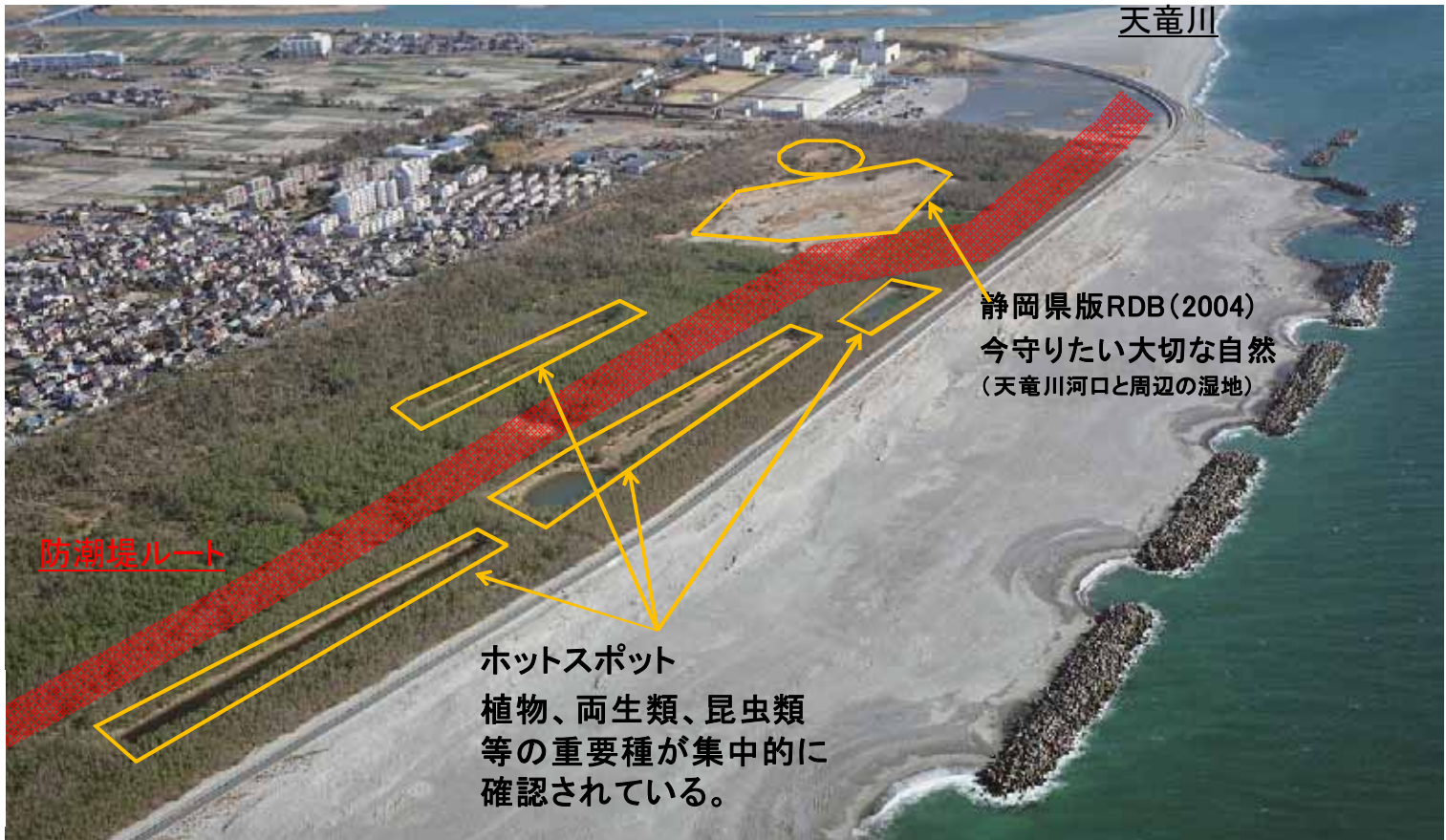


中田島砂丘～馬込川区間の課題

「浜松まつり」の利用を考慮した施設・構造、貴重な動植物への影響軽減策等の検討が求められている。



重要な動植物が確認された池について、影響軽減が求められている。

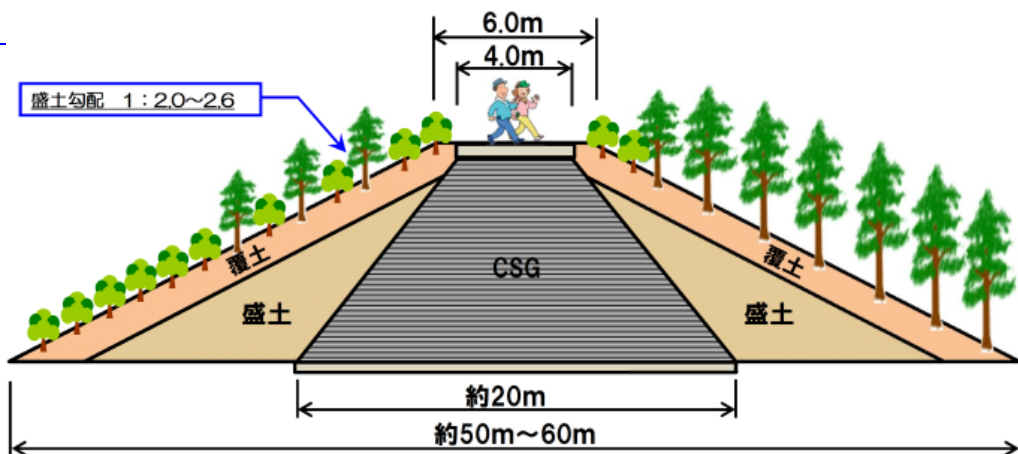


平成27年度の防潮堤整備内容【予定】

- 整備中の5km区間は、鋭意整備を進めてまいります。
- 現在、馬込川から天竜川までの区間において、発注準備を進めております。



【標準断面図】



自然環境検討委員会

防潮堤整備により自然環境に大きな影響が及ばないように、検討委員会を設置して対策を検討しています。平成26年度は、9月と10月の計2回開催しました。

【浜松市沿岸域防潮堤整備に係る自然環境検討委員会】

委員構成	16名(学識者7名、地元4名、行政5名)
委員長	常葉大学教授・山田辰美氏
開催日、及び 主な検討内容	第1回 H25.9.13 希少動植物生息分布調査結果 第2回 H26.1.31 事業実施に伴う自然環境対策 第3回 H26.9.3 同上 第4回 H26.10.23 中間報告



【特に配慮が必要となる生物、環境】



アカウミガメ(浜松市HPより)



カラハンヨウ(成虫)



多くの貴重な生物が生息する人工池

自然環境検討委員会


9月に開催した第3回委員会では、貴重な自然が残る箇所を避けるなどの自然環境対策が了承され、防潮堤の詳細なルートが決定しました。

天竜川河口～馬込川のルート



今切口～舞阪付近のルート



 :防潮堤のルート

自然環境検討委員会

10月に開催した第4回委員会では、今後実施する自然環境対策の方針となる「中間報告」が取りまとめられました。防潮堤の早期完成に向け、本方針に沿った環境対策を、着実に進めてまいります。

第1回～第3回委員会の検討内容

【主な内容】

自然環境対策の方針として中間報告に取りまとめた。

- 今切口付近では、アカウミガメの産卵等への影響を軽減するため、海岸に設置する防潮堤の位置を極力陸側に寄せる。
- 貴重種であるカワラハンミョウの重要な生息地を極力避けた位置に防潮堤を設置するとともに、防潮堤にかかる生息地の代償として新たな生息地を創出する。
- 「遠州灘の原風景」とも言われる湿地や池を避けた位置に防潮堤を設置する。また、これらの池や湿地付近で実施する対策は、「遠州灘の原風景」の復元や再生につながることも意図していく。

中間報告を基本として、引き続き学識者の助言を得ながら着実に対策を進めていく。



委員会ワーキンググループ等における学識者との議論

自然環境検討委員会

中間報告には「遠州灘の原風景」とも言われる自然の保全・再生もうたわれており、当事務所では、浜松市及び県西部農林事務所と協力し、工事の影響を軽減するだけでなく、地域の宝を未来につなげていけるよう努めてまいります。

外来植物に覆われた現状2013.8
(在来植物への脅威)



本来の自然を目指して保全・再生

外来種が繁茂する10年前の状態2003.8



「遠州灘の原風景」である地域特有の自然を保全・再生



外来種の駆除



貴重な植物の移植



防潮堤設置の影響を代償するために池を新設



試験植栽の実施

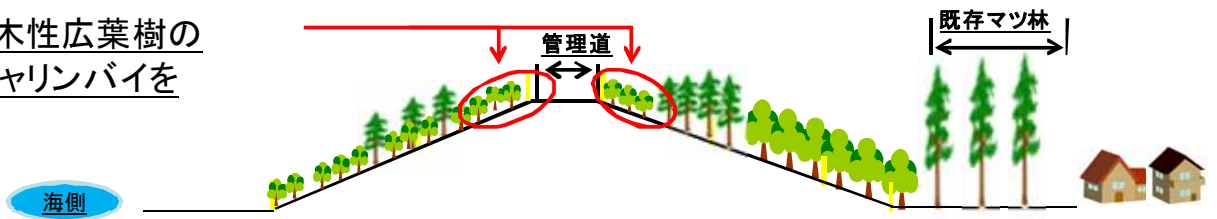
植栽計画検討委員会で選定をした樹種を、試験施工地に試験的に植栽をします。

【浜松土木事務所による試験植栽】

場所: 試験施工その1(南区西島町)

植栽時期: 7月下旬

防潮堤上部に低木性広葉樹のトベラ・マサキ・シャリンバイを720本植栽。



11月末時点

活着率
99%以上

試験植栽の実施

植栽計画検討委員会で選定をした樹種を、試験施工地に試験的に植栽をします。

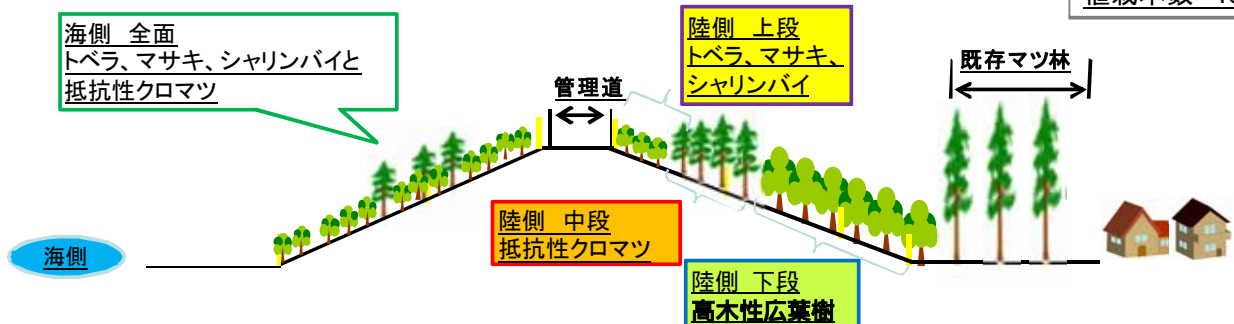
【西部農林事務所による試験植栽】

場所: 試験施工その1(南区西島町)及び
試験施工その2(南区田尻町)

検討会で計画をした植栽パターンにより、クロマツ及び中高木性広葉樹11種を含む植栽を実施する。

植栽時期: 12月~3月上旬

植栽本数 1865本



植栽する広葉樹

樹種	常/落	樹高	根深
ヒメユズリハ	常緑	中木	浅根型
ネズミモチ	常緑	中木	浅根型
クスノキ	常緑	高木	中間型
エノキ	落葉	高木	浅根型
クログネモチ	常緑	高木	浅根型
ヤブニッケイ	常緑	中木	中間型

樹種	常/落	樹高	根深
ヤブツバキ	常緑	中木	浅根型
ウバメガシ	常緑	中木	中間型
ホルトノキ	高木	中木	中間型
ヤマモモ	常緑	高木	中間型
タブノキ	常緑	高木	中間型